

甲斐市立竜王西小学校 自己評価書	
令和7年2月5日（水）作成	
校長 「立澤 正二」 記述者 職名（教頭）「小林 恵子」	
学校教育目標 「自ら学び 自ら考え 進んで行動する 心豊かでたくましい児童の育成」	
学校経営方針 「21世紀を担う人間性豊かで、社会の変化に対応できる生きる力の育成」をめざし、 学校教育の充実に努める。 (1)確かな学力・豊かな心・健やかな体の調和のとれた教育活動を推進する。 (2)全ての子どもたちが、「わかる」・「できる」ことが実感できる、楽しい授業づくりをめざす。 (3)全職員の協働体制「チーム竜西小」の教育活動を推進する。 (4)家庭・地域と信頼し合い、安全で安心な開かれた学校づくりに努める。	
1 全体評価 ○自己評価からは、職員が学教教育目標を意識し具現化に向けて、教育活動に熱心に一生懸命に取り組んでいることが伺える。昨年度に比べ自身の取組に対してやや厳しめの評価をしていると捉えられる項目もあったが、学習意欲の喚起、ICT 機器の利活用の広がりが見られ、職員が連携を図りながら協働体制で学校教育に力を注いでいることが分かる。 ○児童アンケートは、自分の意見を言うことや発表することにやや自信のなさを感じられるが、肯定的な回答が多く、全般的には学校生活を楽しく有意義に過ごせているようである。 ○保護者アンケートは、昨年度と比較すると項目によって多少の増減はあるが、肯定的な回答が多く、子どもが楽しく学校生活を送れていると感じていることや学校の教育活動に理解を示し、生活習慣にも関心をもって家庭での指導をしている様子が伺える。	
2 項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）	
Ⅰ 学校教育目標に関して・学校経営について	
達成状況	自己評価4項目全てにおいてAB評価が100%であったことから、達成状況は良好であると言える。中でも「2 あなたの学校は、学年の教育計画が教育目標や重点目標を踏まえたものになっている。」が75%と高く、教職員が学校の経営方針を理解し、ベクトルを同じ向きにして教育活動に取り組んでいることが伺える。
改善策	「4 あなたは、PDCA サイクルを生かした教育活動を行っている。」の項目は、B 評価が最頻値となっている。自分自身の教育活動を厳しく評価している面もあると思われるが、全職員で教育活動の振り返りをする機会を設け、改善を重ね、職員一人一人が自身の教育活動に自信を持って取り組んでいけるようにする。
Ⅱ 学校運営について（保護者用アンケート等も含めて）	
達成状況	7項目の設問のうち、「6 あなたは校務支援システムを十分活用できている」の項目以外は全ての項目で、AB 評価が90%を超えており、達成状況は良好であると言える。6の校務支援システムの活用に関しては、日常的に使うことが浸透してきており、更なる活用を目指してのことと推測される。 保護者アンケートからは「4 学校だよりホームページなどから教育活動の内容を知ることができる」の項目が昨年度より約3%、「5 学校は保護者・地域住民からの声に耳を傾けていると思う。」の項目は12%向上していることから、学校運営に関して保護者が好意的に捉えていると見ることができる。

改善策	業務改善の項目については、AB 評価が 97%となっており、職員の意識改革が進んでいることが分かる。校務支援システムをはじめとした ICT の活用をさらに進め、共有できるアイテムを増やすなど、業務のスリム化と学校運営の効率化を図っていきたい。
Ⅲ 学習指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）	
達成状況	7 項目全てにおいて AB 評価が 90%を超えている。特に「4 ICT を効果的に活用した授業を行っている。」は A 評価が約 4%向上しており、日常的に ICT を活用していることがわかる。一方で「5 協働的な学びを取り入れた授業を行っている。」に関しては昨年度 AB 評価が 100%であったが、今年度は 92.3%に下がっている。 児童アンケートの「4 学校の授業は楽しいですか。」の項目が昨年度より 2%向上し、85.5%であった。「5 先生はよく勉強を教えてください。」の項目は 0.3%向上し 97.5%であった。保護者アンケートでは「8 学校は熱心に授業に取り組んでいると思う。」の AB 評価が昨年度と同値の 90%、「9 お子さんは授業の内容が分かっていると思う。」は、約 2%向上して 82.4%の評価であった。 学習全般で見ると教職員、児童、保護者との回答に大きな開きはなく、達成状況は良好であると言える。
改善策	7 項目全てにおいて AB 評価が 90%を超えている。特に「4 ICT を効果的に活用した授業を行っている。」は A 評価が約 4%向上しており、日常的に ICT を活用していることがわかる。一方で「5 協働的な学びを取り入れた授業を行っている。」に関しては昨年度 AB 評価が 100%であったが、今年度は 92.3%に下がっている。 児童アンケートの「4 学校の授業は楽しいですか。」の項目が昨年度より 2%向上し、85.5%であった。「5 先生はよく勉強を教えてください。」の項目は 0.3%向上し 97.5%であった。保護者アンケートでは「8 学校は熱心に授業に取り組んでいると思う。」の AB 評価が昨年度と同値の 90%、「9 お子さんは授業の内容が分かっていると思う。」は、約 2%向上して 82.4%の評価であった。 学習全般で見ると教職員、児童、保護者との回答に大きな開きはなく、達成状況は良好であると言える。
Ⅳ 生徒指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）	
達成状況	「4 キャリア教育を児童生徒の実態に応じて行っている。」の AB 評価は 88.4%であったがそのほかの項目は 100%であった。「2 児童生徒理解のためにコミュニケーションを図っている。」「3 児童生徒の規範意識を育む指導に取り組んでいる。」は、A 評価が 7 割を超えており、教職員の生徒指導への意識の高さがうかがえる。児童アンケートでは「12 困ったことがあったら相談できる先生がいますか。」の A 評価が 80.2%で昨年度より 3%向上しており、児童とのコミュニケーションが図られていると見ることができる。 また、児童アンケートの「13 学校の決まりや約束ごとを守っていますか。」は、昨年度よりやや下がったが、92.6%の AB 評価、保護者アンケートの「7 学校は子ども達の間違った行動などに対して、指導していると思う。」が昨年度よりやや向上して 83%の AB 評価になっていることから、達成状況は良好と言える。
改善策	児童アンケート「25 将来の夢や希望を持っていますか。」の AB 評価は 85.2%で、保護者アンケートの「22 お子さんは将来の夢や希望を持っていますか。」は、74.5%が AB 評価である。このような実態を踏まえ、キャリアパスポートを有効的に活用し、今の自分が未来の自分につながっていくことを意識させるようなキャリア教育の必要性を強く感じる。キャリア教育主任を中心として全校体制で取り組んでいく。 防災意識に関する項目は、自己評価が 100%の AB 評価、児童の「27 普段から防災・防犯意識を持って生活していますか。」は 3.2%向上して 86.1%、保護者は 0.8%向上して 62.9%になっている。様々な災害が発生している昨今の状況を踏まえ、訓練だけで

	なく特別活動の時間などを利用し繰り返し指導をして、児童の防災意識を高めていく。 また、保護者アンケートの「10 お子さんのことで相談できる先生がいますか。」がやや上昇して 71.6%になっているが、より一層の連携を心がけ、学校と家庭との両輪がバランス良く回転できるように努めていきたい。
V 地域との連携について	
達成状況	自己評価では「1 教育活動の中に地域の人材や施設を活用し、地域の教育力を生かす指導を行っている。」を以外の全ての項目が 90%を超える AB 評価となっている。児童アンケートでは「24 今住んでいる地域の行事に参加していますか。」の項目が昨年度より 4.2%向上して 73.9%に、保護者アンケートの「21 お子さんは今住んでいる地域の行事に参加していますか。」も 10.3%向上して 73.3%になっている。各地域で行事がコロナ禍前に戻ってきていることが大きな要因だと思われるが、このような評価から、達成状況は良好であると言える。
改善策	いきいき推進事業の活用や学習ボランティアの募集などを行い、体験学習を充実させているが「地域の人材地域の施設を活用し地域力を生かす」という点はまだまだ改善の余地がある。今後は今年度立ち上がった学校運営協議会の力をお借りし、地域人材とのつながりをさらに強め、より充実した学習活動になるよう取り組んでいく。
VI 学校の特色に関して	
達成状況	自己評価は2項目とも AB 評価が 95%以上で、「1 あなたは児童が進んで挨拶をするよう指導に努めている」の項目は 96.8%であった。保護者アンケート「19 ご家庭では、お子さんに進んで挨拶するように言っていますか。」が 89.4%、「16 ご家庭では家族でお互いに挨拶をしていますか。」が 95.7%の AB 評価になっており、あいさつに関して高い意識を持っていることがうかがえる。また「20 学校は子供たちに地域以外でも挨拶をするよう指導していると思う」が昨年度より 3.3%向上して 70.7%になっている。児童アンケートの「23 誰とでも挨拶をしていますか。」は 3.5%減って 86.7%であった。学校内では挨拶ができるが、学校外ではなかなかできないと感じている児童がいると推測される。
改善策	学校内だけでなく地域や様々な施設の人々に挨拶ができるよう、校外学習などの機会ですら教師が自ら挨拶をする姿を見せると共に児童への声かけをこまめに丁寧に行っていく。また、学校での取組、家庭での取組が同歩調となるよう、ホームページやお便り等で発信していく。 学校行事は、精選・スリム化が進んでいる。一つ一つの行事で教育効果を高めるために、付けたい力が何かを明確にし、児童が満足感や達成感を得られるように、学校全体で指導を行っていく。
VII 創甲斐教育について	
達成状況	全ての項目において AB 評価が 95%を超えている。「2 コミュニケーション力を生かして学び合えるよう指導に努めている。」の A 評価は 63%で、AB 評価は 100%であった。児童アンケート「26 友だちとコミュニケーションをとりながら活動することは楽しいですか。」の項目も AB 評価が 96%になっており、コミュニケーション力が養われてきていると推測される。「1 児童が積極的に読書活動に取り組むよう、指導に努めていますか。」も AB 評価は 100%であったことから達成状況は良好であると言える。
改善策	読書活動に関しては、児童・保護者アンケートの回答から家庭における読書時間の確保に難しさが感じられる。家庭学習強化週間や読書週間など、期間を決めて重点的に取り組んでいけるような呼びかけを続けていく。 また、体育の時間だけでなく休み時間や特別活動の時間にも体力の向上を意識した取り組みを継続的に行っていく。

3 まとめ

〈成 果〉

- ・「報告・連絡・相談・確認」を行い、職員が連携して協働体制で学校教育目標の達成に向けて取り組んでこられたことは大きな成果である。各々が力を発揮し「チーム竜西小」として、子供たちのために教育活動に邁進していきたい。

〈課 題〉

- ・協働的な学びの機会を増やし、コミュニケーション能力の醸成を図るとともに、子供たちが自主的に意欲を持って学習に向かえるよう、家庭・地域とのつながりを確かめ合いながら、日々の教育活動を大切に営んでいく。